

女性の就業機会拡大に関する調査報告書（概要）

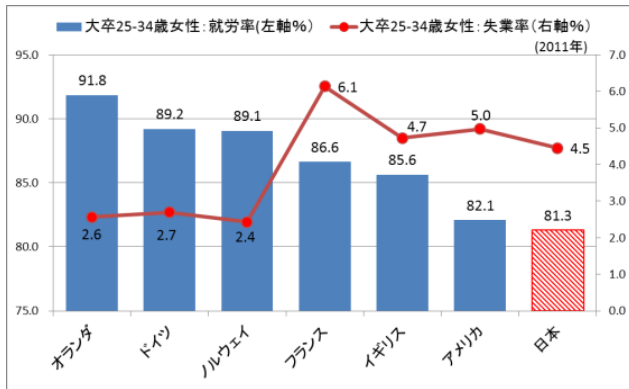
* 出典記載がないデータは、女性就業拡大PTが大府民対象に行ったインターネットアンケート調査（2013年10月実施）による

女性を取り巻く就業環境

国際的に見た日本の女性の就業環境

◆ 日本の大卒女性の就業率は、OECD加盟32か国中28位。失業率も高水準にある。

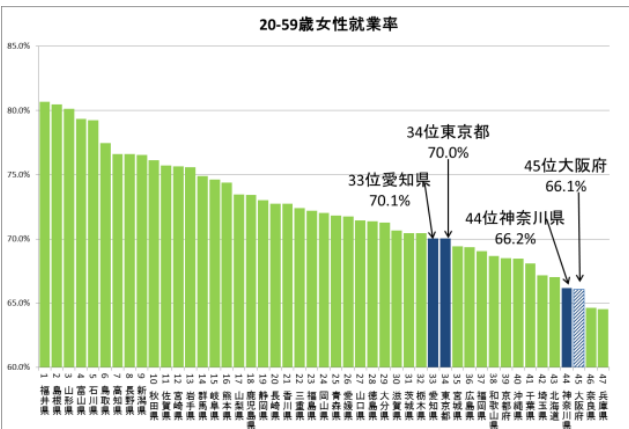
出典：OECD, Education at a Glance(2013)



全国的に見た大阪府の女性の就業環境

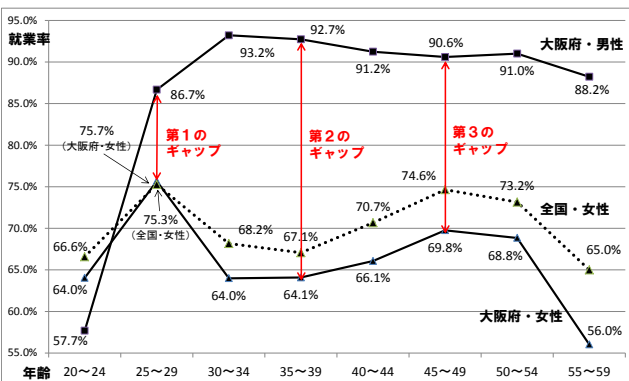
◆ 大阪府の20-59歳女性の就業率は全国45位と最低水準。

出典：H24 就業構造基本調査



大阪府の女性就業の「M字カーブ」の特色

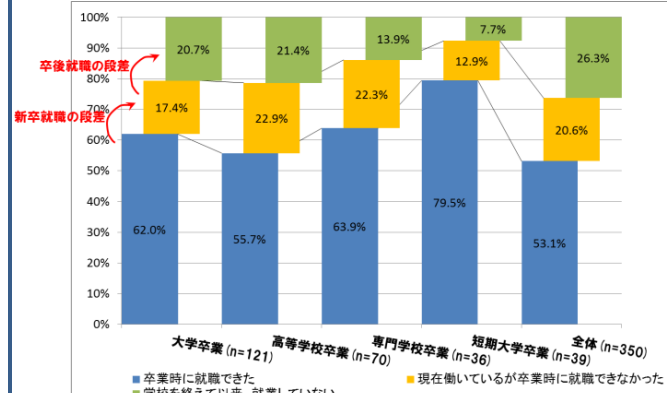
◆ 大阪の女性は全国に比べて、「M字カーブ」の谷(第2のギャップ)が深く、その後の回復も鈍い。



M字カーブの「第1のギャップ」〔新卒・若年女性の就業促進〕

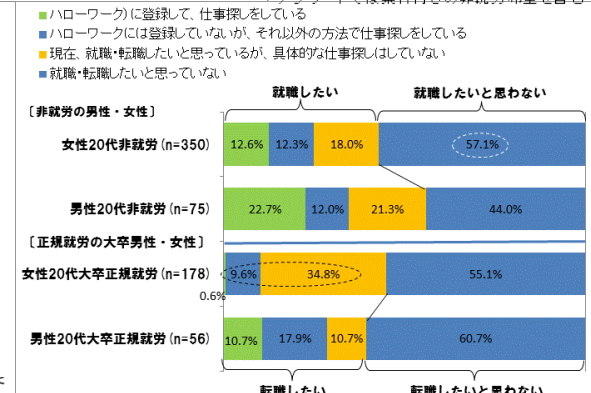
◆ 現在働いていない大卒20代女性の4割は卒業時に就職しておらず、2割は卒業後も就業経験がない。

学歴別に見た大阪の20代女性の就業状況



◆ 働いていない20代女性の6割弱は就職を希望せず(*)、大卒正規就業女性の45%は転職希望と回答している。

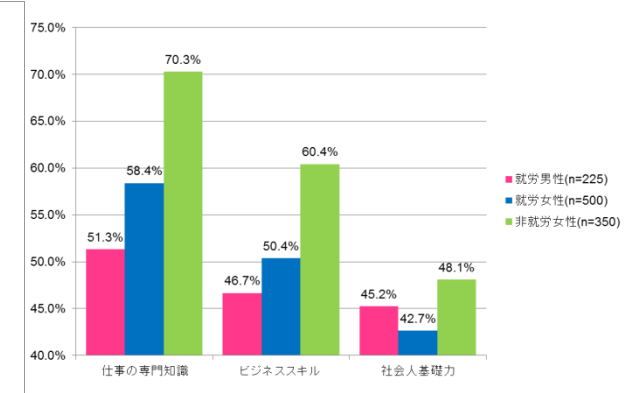
大阪の非就業・正規就業20代男女の就業・転職意識



注) 「男性20代正規就業」には、就職時に困難を経験した男性に限定する趣旨で、「卒業時から正規就業を継続している者」は含まれていない。

◆ 働いていない20代女性は、求職活動に必要なスキル等に自信がない割合が高く、仕事の意欲や能力向上が課題

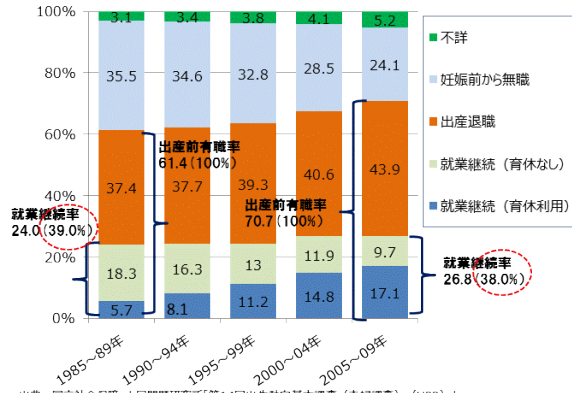
20代男女が求職活動で「自信がない」割合



M字カーブの「第2のギャップ」〔結婚・子育て世代女性の継続就業〕

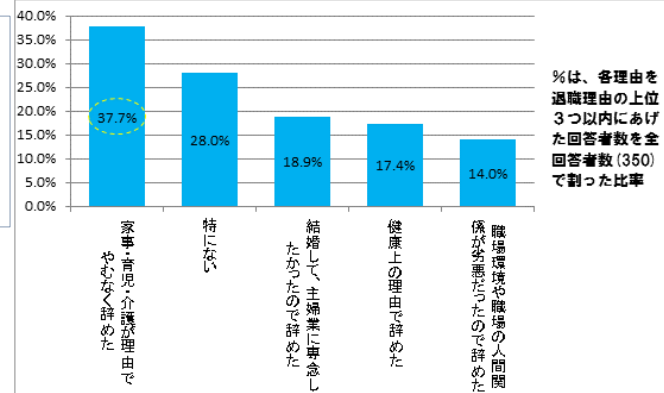
◆ 出産前有職者の第1子出産後の就業継続率は約4割で、30年間この割合は変化していない。

第1子出産前後の女性の就業変化(経年比較)



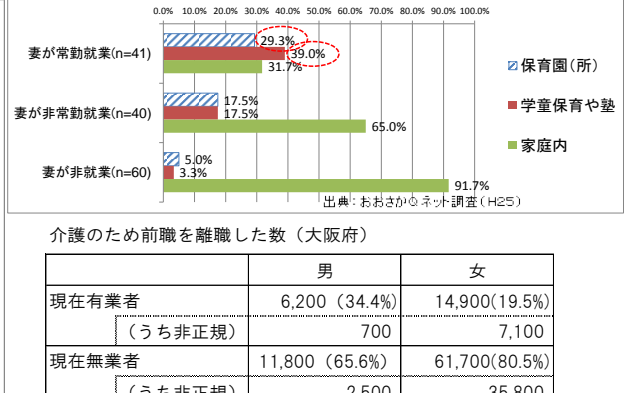
◆ 大阪の働いていない20代女性の4割弱が、家事・育児・介護のいずれかの理由でやむなく辞めている。

20代非就業女性の退職理由



◆ 常勤就業女性の7割が保育所・学童等を利用しており、その確保が常勤就労促進の課題。近年は介護離職も増加

女性の就業形態と子育ての担い手の関係



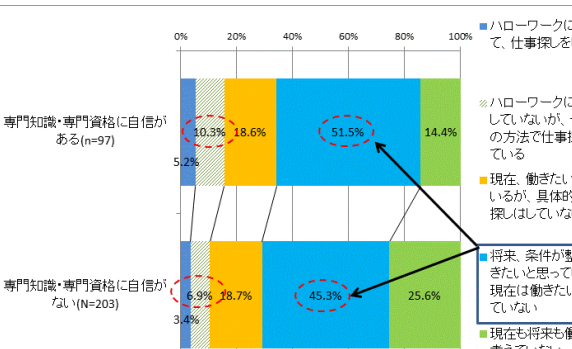
介護のため前職を離職した数(大阪府)

	男	女
現在有業者	6,200 (34.4%)	14,900 (19.5%)
(うち非正規)	700	7,100
現在無業者	11,800 (65.6%)	61,700 (80.5%)
(うち非正規)	2,500	35,800

M字カーブの「第3のギャップ」〔ポテンシャルの高い離職女性の再就業支援〕

◆ 大阪の30代女性は、仕事のポテンシャルの高い女性ほど、求職者や条件が整えば働く者の割合が高い。

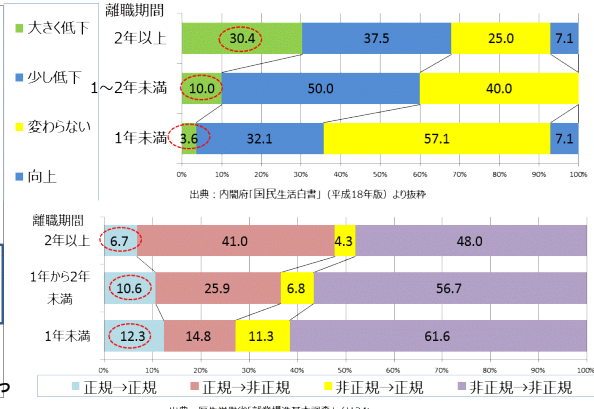
30代の就業を希望していない女性の就業意識



注) 「仕事のポテンシャルの高い女性」とは、求職活動で「仕事に関する専門知識」、「仕事に役立つ専門資格」に「非常に自信を持っている」、「ある程度自信を持っている」と回答した女性をいう。

◆ 離職期間が長くなるほど、技能・知識が低下し、正規社員で再就業できる可能性が低下している。

離職期間による技能・知識の低下と再就業形態



◆ ポテンシャルの高い女性を活用するには、専門能力の再訓練とそれを活かせる職種・業種との適切なマッチングが課題

就業不希望の30代女性が就業する条件

